

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた街づくり

—高齢者、障害者と外国観光者を中心とした街づくり—

張 珂

外国人として日本に来たときに日本語がそんなに上手ではなかったため、日本語表記しているサインではしっかり分からず、本当に困った。世界がだんだん国際化し外国人の訪問も多いが、言葉の壁が大きく、日本語だけ表記のみのサインではなかなか満足できなかった。もっと誰が見ても分かりやすいサインが期待されるが、生活者としても観光客としても暮らしやすい生活環境を実現する環境の整備が求められる。

それ以外に、多様な生活場面における人間の動作に必要な空間の条件を、人間工学から考える必要がある。人間の身体的・生理学的側面のみならず、心理学的側面に対する探求も含まれる。大人と子供の動作域が異なるように、それぞれの人間の時と場合で、必要寸法や適正寸法は異なる。また、トイレの使用時間に男女差があるように、同じ生活行為であっても所要時間には個人差がある。

さらに、身体的な変化が生じ、それまでの生活動作に対応して要求される空間条件が異なってくる。

ここで、補装具や人的介助などが必要となり、だからそれにより、生活環境の整備においては、利便や快適、健康や安全のユニバーサルサインやユニバーサルデザインの普及が大切である。

本論文では、はじめに、第一章——ユニバーサルサイン、第二章——バリアフリー（Barrier free）、第三章——ユニバーサルデザイン（Universal Design）の定義と7原則、第四章——ユニバーサルデザインによる多様な利用者と利用者への配慮、第五章——今後のユニバーサルデザインの展開、第六章——ユニバーサルデザインの視点を取り入れた街づくり事例、おわりに、から成り立っている。

はじめにでは、本課題研究の背景、問題意識、研究目的をはっきりさせて、国際化になってきた現代生活の状況により起こった様々な問題点を述べて、ユニバーサルデザインの大切さを引き出す。第一章では、ユニバーサルデザインのの一つとして、ユニバーサルサインの概念、種類と多様な利用者のサイン環境について、それぞれ説明する。第二章は、バリアフリーの概念、バリアフリーとユニバーサルデザインの関係及び違うところを分析する。第三章では、ユニバーサルデザインの概念、起源から、さらにユニバーサルデザイン7原則について、事例を取り入れて詳しく説明する。第四章は、ユニバーサルデザイン利用者属性別の主な身体的特性とそれぞれに対するデザイン配慮事項についてまとめる。例えば高齢者の場合は、身体的機能の低下がある。骨、関節の硬直化、視覚、聴覚等の感覚的機能の低下とかがある。肢体不自由者の場合は、病気、あるいは障害があり、日常生活における基本的な動作が困難な場合がある。外国人の場合は、国際化により多くの外国人の訪問が期待されるが、言葉の壁は大きく、本国語表記のみのサインでは対応できない場合が多い。利用者属性別の主な身体的特性により、それぞれに対するデザイン配慮事項を注意しなければならない。第五章はユニバーサルデザインのメリットとデメリットから、今後のユニバーサルデザインへと展開して、新しい社会問題——少子高齢化と新しい生活環境——国際化状況を述べて、なぜユニバーサルデザインの多様な利用者の中で、高齢者、障害者と外国人観光者を中心にしたのかの理由を表す。第六章は、日本と中国における少子高齢化と国際化状況の分析により、中国や日本政府は少子高齢化に対応する政策と外国人観光客の受け入れ環境の整備・充実を総合的に推進することについて努力したことを日本の京都市や中国の北京市、上海市と開封市を代表として、政府が取り組んできた事例を挙げて説明した。さらに、日中の対比によって、中国で現在

実行されているユニバーサルデザインの不足点などについて検討する。最後のおわりに、ユニバーサルデザインが現代生活に対しての重要さをもう一度表明し、そしてユニバーサルデザインの視点を取り入れた街づくりが生活環境への影響などについてまとめている。

本論文では、大量な事例を取り入れて、ユニバーサルデザインが快適、健康、便利な生活環境への良い影響を述べたほかに、日中の対比によって、中国は今現在実行されているユニバーサルデザインの不足点などについても検討した。中国のほうもユニバーサルデザインを重視するようになってきているが、しかし、日本のようなユニバーサルデザイン施設が普及していない。また、ユニバーサルデザイン施設を設ける際に、施設を設置するだけではなく、施設の実用的なことを考えなければならないと思う。

国際化が進んだ現代ではユニバーサルサインとユニバーサルデザインがだんだん普及してきている。それにより、ユニバーサルサインの有用性やユニバーサルデザインの意義についても多くの人が認めることになってくると思う。このような考えを持って、共通の設備で対応できるより多くの人が理解しやすく、使いしやすくするためにどうしたらよいかについて研究した。もし見るところすでに誰でも使いやすいものばかりなら、私たちの生活環境もどんどん変わってくるだろう。